

日本性科学会ニュース

◆第44回日本性科学会学術集会◆

大会長：金子 法子（針間産婦人科 院長）

テーマ：多様な性と生を謳歌する

日 時：2025年10月5日（日）

会 場：海峡メッセ下関 8・9・10階（山口県下関市豊前田町 3-3-1）

H P：<https://orbit-cs.net/jsss44/>

プロ グラム：

大会長講演 08:30～08:50 第1会場

「目に見えない生き辛さを抱える当事者へ寄り添う。～診療・支援・社会活動を続けてきて～」

金子 法子（医療法人いぶき会 針間産婦人科院長）

理事長講演 08:50～09:10 第1会場

「性同一性障害者特例法に関する最高裁違憲判決後の現状」

針間 克己（日本性科学会理事長・はりまメンタルクリニック院長）

シンポジウム 09:20～11:20 第1会場

「子育て後のパートナーシップ～人生後半の課題を考える～」

村瀬 幸浩（元一橋大学講師・元津田塾大学講師・“人間と生”教育研究協議会元代表幹事）

「過去から未来への性教育～大人にこそ聞いて欲しい大切な話～」

河野 美代子（医療法人 河野産婦人科クリニック院長）

特別講演 11:30～12:30 第1会場

「哲学者たちは性と人生をどう説いたか」小川 仁志（山口大学国際総合科学部 教授）

教育講演 14:10～15:10 第1会場

「LGBTQの生殖医療」中塚 幹也（岡山大学大学院保健学研究科 教授）

指定講演 15:25～16:05 第1会場

「多様な性と家族が尊重される地域社会のために」鈴木 朋絵（鈴木法律事務所）

ランチョンセミナー 12:50～13:50 第1会場

「fractional CO₂ レーザー治療（モナリザタッチ®）はどこまで性交痛を改善できるか～当院での臨床評価から今後の課題へ～」八田 真理子（聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田）

「見逃されていた適応を探る！外陰部搔痒症とLUTSにモナリザタッチを使いこなす」二宮 典子（医療法人心庵会）

共催：有限会社エフケアーネッツ／DKSHマーケットエクスパンションサービスジャパン株式会社

◆第44回日本性科学会学術集会 市民公開講座◆

テーマ「死ぬまで豊かな性を享受したい！」

～男女の性のすれ違いを乗り越えるためには～」

日 時：2025年10月4日（土）17:30～18:30（開場 17:00）

会 場：海峡メッセ下関9階 海峡ホール（山口県下関市豊前田町 3-3-1）

講 師：森林 原人（セクシャルコミュニケーションセラピスト）

丹羽 咲江（咲江レディースクリニック 院長）

今井 伸（SRH ケアクリニック静岡 院長）

座 長：金子 法子（針間産婦人科 院長）／富永 喜代（富永ペインクリニック 院長）

発行人 針間克己

発 行 令和7年(2025年)9月

D T P 編集工房一生社

一般社団法人 日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4階

TEL・FAX：03-3868-3853 E-mail：office@sexology.jp URL：<https://sexology.jp>

第54回 セックス・カウンセリング研修会の報告

テーマ：大人の性教育

北里大学看護学部 西 佳子

2025年6月1日（日）、お茶の水女子大学で第54回セックス・カウンセリング研修会が開催されました。今回のテーマは「大人の性教育」で、医師、看護職、心理職、教員、学生など、さまざまな立場の方が参加されました。（以下は、ご講演に寄せられたアンケートからの抜粋です。）

◆今井 伸先生：「男性への性教育 — 射精教育を中心に」

泌尿器科医の視点からのご講演でした。

- ・「射精教育が明日の日本を救う」という言葉に深く共感しました。予防医学としての男子性教育を、青年から高齢期まで幅広い世代に届けることの大切さを改めて実感しました。
- ・マスターバーチョン教育の必要性を強く感じました。射精障害との関わりや性教育の意義について、楽しく分かりやすく学ぶことができました。

◆池田 詩子先生：「女性に向けた性教育 — クリトリスの解剖とオーガズムを中心に」

産婦人科医の視点からのご講演でした。

- ・発生学や解剖学をふまえた基礎知識を整理でき、とても学びが多い時間でした。クリトリスを学術的に取り上げることが大変興味深かったです。
- ・「自分だけじゃなかったと気づいてもらうことが大切」という言葉が印象に残りました。外性器の構造を正しく理解することの重要性を再認識しました。

◆富永 喜代先生：「性を語る勇気と技術 — プロフェッショナルが発信者になるためのYouTube／SNS戦略」

麻酔科医の視点からのご講演でした。

- ・SNSやAIが広がる今だからこそ、「届けたいことを、届けたい人へ」という発信の大切さを実感しました。力強い発信力に圧倒されました。
- ・性を語る方法は人の数だけあるのだと感じました。先生の動画を拝見したところ、想像以上に学術的で実用的な内容であり、非常に参考になりました。

◆東田 展明先生：「性的同意とセクハラ — 刑法改正に見える性的行為に対する当事者の意思の評価とハラスメントの実情」

弁護士の視点からのご講演でした。

- ・性的同意の定義や法改正の経緯について学ぶことができ、とても考えさせられました。個人のリテラシーを高めることの大切さを感じました。
- ・法改正は望ましいことですが、必要以上にリスク回避に偏らないようにすることも重要だと思いました。性はコミュニケーションであることを改めて確認でき、支援職としての役割を強く意識しました。

◆針間 克己先生（学会理事長）：「LGBT理解増進法の基礎知識」

精神科医の視点からのご講演でした。

- ・法律が作られる過程のお話は大変興味深く、法律文言の解説も分かりやすく勉強になりました。
- ・「性的指向やジェンダー・アイデンティティは、すべての人が持っている」という言葉が心に残りました。これまで自分はどこか他人事のように受け止めていたことに気づかされました。

◆石丸 径一郎先生：「セックス・セラピーにおける初回面接（インテーク）」

初回面接で重視されるアセスメント面接と共感面接について学び、さらにロールプレイで実践することができました。中年期の性交痛や挙児希望を持つ夫婦へのカウンセリングについても活発な意見交換が行われました。

- ・実際にロールプレイをしてみると、見るのとやるのでは大きな違いがあり、とても難しく感じました。
- ・実践を通してしか身につかないことがあると実感しました。ファシリテーターの先生からの助言も大変参考になりました。

今回の研修会を通して、予防医学としての男子性教育の重要性、性差による「オーガズム・ギャップ」から「orgasm equality」への転換、不同意性交罪の新設を含む法改正、さらにはLGBT理解増進法など、多角的な学びを得ることができました。

今後も「誰もが安心して生きやすい社会」をめざし、研修会の運営に力を尽くしてまいりたいと思います。

「セクシュアル・ジャスティス宣言の採択と日本の課題」

明治大学 平山満紀

2025年6月16日～19日、オーストラリア・ブリスベンで、第27回 WAS（世界性の健康学会）大会と第17回 AOFS（アジアオセアニア性科学連合）大会が合同開催された。

ホストは SAS（オーストラリア性科学会）であり、SAS会長が大会会長を兼務した。世界52か国から600人以上が集う活況を呈し、シンポジウム、基調講演、個人報告で300人以上がスピーカーとなり、127のポスター報告がされた。前回の WAS 大会では採決に至らなかった「セクシュアル・ジャスティス宣言」の採択という、大きな成果もあげた。

この大会については、JASE の『性教育研究ジャーナル』173号（2025年8月15日刊）にすでに、東優子・金ハリム共著の5頁にわたる詳細な報告、およびセクシュアル・ジャスティス宣言日本語訳が、オンラインで公開されている。AOFS 役員である東の知見が活かされ、注目すべき人々の報告や組織や大会の経緯などについても要点を押さえ、本大会の特徴を見事に描き出している。本稿はその後の刊行で、またごく短いので、これが触れなかった部分に焦点を当てよう。みなさまには上記報告を是非お読みいただきたい。

非常に幅広いセッションのテーマや報告のトピックに触れて、実感したことがあった。医学、看護学、臨床心理学、性教育などの多様な分野の人たちが、性という共通の関心に基づいて集っているというより、日本にはないその先の状況が起きているのだ。多様な分野の知見を入れた「Sexology 性科学」という分野が、ひとつの専門分野として成り立ち、かなり共有されている。大会会長の Armin Ariana も医学部卒業後、分子病理学で博士号を取り、その後、医療資格をもつ人のための性科学・性の健康の修士課程を終えたという。WAS 会長を4年間精力的に務めてきた Elna Rudolph も、医師として活動開始後、修士課程で学び Master of Sexual Health を得ている。オーストラリアの大学には、医療資格のない人向けの、性科学・性の健康の修士課程もある。本大会には、カーティン大学性科学修士課程の学生たちが多数参加し、私の口頭報告「デジタル時代における若者の性的非活発化」

にも、この学生達が質問に来てくれた。こうして、医療資格を持ったあとや、他の分野を学んだあとに修士課程で性科学を学んだりして、Sexologist としての専門知識とアイデンティティをもった人たちが、集っていると知った。

性教育のセッションも多かったが、中でも印象的だったのが、UNFPA（国連人口基金）と WAS 合同の「学校の外にいる青少年」に向けた包括的性教育に関するセッションだった。UNFPA チームのコロンビアとエチオピアでの実践に基づき、学校に通っていない青少年（世界で総数は2億5000万人という）にどうしたら包括的性教育をしっかりと届けられるか、真剣に問うものだった。日本でもそのような子は多い。学校にも家庭にも居場所がなく路上売春に行きつく子もいて、興味本位の視線はあっても、その子たちへの包括的性教育は、ほとんど考慮されていないだろう。性の健康と権利の先進国との違いは大きい。

本大会の中心は「セクシュアル・ジャスティス」に関する多くの講演やセッションだった。セクシュアル・ジャスティスとは、性の健康と権利からの特定の人々の排除を批判し、医療、教育、法制度をはじめとした構造の変革により、性の健康と権利をすべての人のものにしようとする実践的理念である。学校の外にいる青少年への性教育は、もちろんそのひとつだ。しかし日本では、同性婚の未合法化、避妊法や中絶法の制限など、性の健康と権利が一部の人ではなく、社会全体で制限されており、その日本特有の構造を批判すべきだろう。セクシュアル・ジャスティスという概念には日本の現実を踏まえた理解が必要だと思う。

本大会では役員も改選され、次の AOFS 大会は日本で開催、私平山満紀が大会会長をつとめることに決定した。JSSS とも相談し、2028年8月に、JSSS 学術大会と AOFS 大会の合同開催をすることになった。国際学会は諸外国の状況を実感でき、日本の課題も明確に自覚できる非常によい機会だと思う。性科学が専門分野として広く認識される機会になればとも願う。ご一緒に、日本での性の健康と権利の向上のために、最高に意義のある大会を作りていきましょう。

事務局から：年会費お支払いのお願い

2025 年度分の年会費が未納の方におかれましては、速やかなお支払いをお願いいたします（過年度分のお支払いがまだの方は合わせてお支払い願います）。クレジットカードで支払いができる「学会バンク」のご利用については下記をご参照ください。銀行振込を希望される場合は事務局までメールでご連絡ください。

手順 1. 学会バンクにログイン

ログイン用 URL : <https://gkb.jp/login>

メールアドレス : (日本性科学会に届け出ているメールアドレス)

パスワード : (学会バンクにて設定したパスワード) ※不明な場合は下記参照

手順 2. ログイン後の最初の画面で、日本性科学会のロゴをクリック

手順 3. 「年会費の納入がまだの年度があります。お早めにご納入ください。」の右「オンライン納入」をクリック

手順 4. クレジットカード情報を入力して納付

※パスワードが不明な場合

パスワードのリセット機能を使用して再設定します

手順 1. <https://gkb.jp/login> にアクセス

手順 2. 「パスワードをリセット」をクリック

手順 3. メールアドレス欄に、日本性科学会に届け出ているメールアドレスを入力

手順 4. 手順 3 で入力したメールアドレスに、「パスワードリセットを承りました」というメールが届くので、そのメールの本文に記載された URL をクリック

手順 5. 「新たなパスワードを発行いたしました」というメールが届くので、新パスワードを使用して、<https://gkb.jp/login> からログインする

*ログインに成功すると、学会バンクの会員マイページに遷移します

2026 年 研修会・学術集会予告

第 19 回 日本性科学会近畿地区研修会【オンライン開催】

テーマ：性に関する理論と実践

日 時：2026 年 2 月 1 日（日）10:00 ~ 13:00

第 45 回 日本性科学会学術集会

大会長：織田裕行（きじまこころクリニック）

石原広章（石原クリニック）

真鼻弘美（きょうとイロ、NPO フラット）

テーマ：実装！性科学 医療 教育 地域で奏でる共創

日 時：2026 年 9 月 12 日（市民公開講座）・13 日

会 場：京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都